

英語科

ESL Class Newsletter Project

—インターネットを利用したクラス間交流—

仲田 恵子

【抄録】 本校では、平成7年度から英語の授業で生徒が書いた英文を、学級新聞という形で海外の学校と交換し、授業で教材として利用して異文化間交流を行ってきた。本研究は、英語を母語としない生徒と教師をネットワークで結ぶ共同研究で、海外の学校の参加を得てインターネットを活用して実施したクラス間交流学習の記録である。以下にその企画内容、参加校募集、運営、経過、成果、課題について述べる。

【キーワード】 英語教育、ライティング、インターネット、ネットワーク、国際理解、異文化理解、E-メール、ESL、ESOL、学級新聞、交流学習

はじめに

英語を外国語 (EFL) または第二言語 (ESL) として学ぶ生徒にとって、インターネットを活用した交流は英語で自己表現する機会となるだけでなく、動機付け及び国際理解の面で意義が深い。

本研究では、英語を母語とする生徒たちとの交流ではなく、英語を母語としない生徒同士の間で、互いの英語学習の成果を発表する手段として学級新聞 (ESL/EFL Class Newsletter) を用いて異文化間交流学習を行った。

ここでいう「クラス」とは、「英語の授業」のことである。本校の英語の授業と、海外の英語を母語としない生徒・教師たちの英語の授業とを結ぶネットワークを、どのように作り、利用し、互いの英語学習や国際理解に活用していったか、その共同研究の報告を行いたい。

1. 共同研究の発案

アメリカでは、小学校、中学校、高等学校が、理科、社会科、外国語などの科目で授業単位で交流をしている。これは、単なるメール交換のレベルの交流ではなく、生徒たちが同じテーマで調査研究をして結果を比較したりしながら共同で授業に参加する形の交流学習である。

本校の生徒も平成7年度から、ネイティブの生徒たちと交流学習をしている。例えば、平成8年度は高校1年生の総合人間科の「ボランティア研究」グループで、ボランティア活動を授業に取り入れているアメリカの高校と結んで、ボランティア活動の状況やボランティア活動に対する意見や体験談を交換した。

しかし、このようにネイティブの生徒たちと交流をする際に、日本人の生徒は英語力不足から相当な苦勞を強いられる。アメリカから届いたメールを解釈する際や、英文を書く際に困難を体験し、不公平さを感じながら英語を母語とする人々と交流することとなる。

一方アメリカでは、英語を母語としない生徒と教師のためのESL/EFLネットワークがあり、移民の子どもたち同士、外国人留学生同士が、お互いに英文を書く苦勞を分かち合いながら交流し、ネットワークを英語学習に活用している。

こうした授業と授業を結ぶネットワークにヒントを得て、本校発の共同研究を呼びかけることにした。海外の教師たちの協力を得て、平成8年度から英語を母語としない生徒対象の英語の授業 (ESL/EFL) でつくる月刊学級新聞交流学習を実施している。

2. 企画の目標、内容

共同研究の企画名は、ESL Class Monthly Newsletter Exchange Project (英語を母語としない生徒対象の英語の授業でつくる月刊学級新聞交流計画) とした。以下「ニューズレター・プロジェクト」と略す。

本研究の目標は、英文を読み書きする活動を通して生徒の英語力を伸ばすと同時に、コンピュータで英文をタイプする際の技術的な能力を高め、交流する相手校をめぐる状況を知り異文化理解を深め、視野を世界とそこに生活する人々に広げることである。

この共同研究に参加する生徒たちは、世界の同世代の若者がどんな生活をし、どんな学習をし、どんな考えを持っているか、お互いの相違を認識し、新しい友人を作ることが出来る。

また、教師にとっては、お互いのESL/EFL教育環境

と社会状況について学び合い、インターネットなどのネットワークを教育に活用する在り方についての一研究となる。

対象は高校生とし、期間は6月から翌年の3月までと、9月から翌年の5月までとした。期間にずれがあるのは、学校によって新学期の始まる時期が異なるからである。6月から始めた「ニューズレター・プロジェクト」に、9月からアメリカの高校が参加した形で継続された。

毎月の英文課題は、著者が提案し参加校の教師の意見を含めて決定した。しかし毎号自由テーマの英文も歓迎した。つまり地域の文化に関することで海外の学校に紹介したいことや、授業に関連したことで海外の生徒と意見交換したいことはいつ書いても良いということにした。

英文のテーマ課題は当初次のようであった。

- (1) 自己紹介、クラス紹介、学校紹介
- (2) 学校生活、放課後の活動
- (3) 休日、祝日、
- (4) スポーツ、ゲーム、遊び(資料1)
- (5) 趣味、興味
- (6) 好きな本、著者
- (7) 週末の楽しみ
- (8) 関心のあるニュース
- (9) 休暇の計画

参加校の教師の協力で、毎回創造性豊かな形式のニューズレターが届き、感心しながらすすめていった。たとえば、学校紹介をする際に、生徒が自分の言葉で学校について語るだけでなく、学校について校長先生にインタビューしてそれをニューズレターに仕上げたものもあった。また、都市の紹介ではクイズを作って問いかけるものもあった。(資料2)

また、自由テーマとして生徒たちが取り上げたものには、学校や地域の行事、文化や歴史関連の事項、季節の話題、自然災害などがあった。

ニューズレターの配信については、生徒個人がメールアドレスを持っている場合でも、授業担当教師が生徒の英文を一通のメールにまとめて参加相手校に送ることを条件とした。生徒同士の直接交流は、本校のように生徒が個人のメールアドレスを持っていない場合に不可能である。生徒個人のメールアドレスが普及しているアメリカの学校とは対照的に、他の国ではパソコンがクラスに1台、或いは学校に数台という場合もあった。

そこで、著者が参加教師のメールアドレスを常に最新のものにして参加教師に知らせ、各教師は互いにニューズレターを送った。もしこのようなネット

ワークでメーリングリストを作ることが出来れば配信は容易であるが、メーリングリストを作成しその登録アドレスを頻繁に更新するのは本校の現状では難しい。また民間のプロバイダーで作るには料金がかかる。残念ながらメーリングリストを作る予算がないためやむを得ずこの方法をとった。

各教師が残りの全教師にニューズレターを送るという方法は9月～2月頃に問題がでてきた。当初、10校～20校程度の参加を予定していたのが、参加校が急に増えて、一度に50校の教師に送らなければならない状況になったためだ。多くのアドレスへ配信することが困難なロシアの学校などの場合には、教師の依頼で著者が代わって本校から他の参加校へ配信した。

教師が生徒の英文をまとめて1つのメールにして配信する場合の利点は、教師が英文の内容に目を通すことができるので、生徒は教師のアドバイスを受けながら英文を上達させて行くことが出来る。また、生徒と教師の両方がニューズレター作成に参加することが出来る。

一方、教師、生徒のどちらかが試験や行事で多忙の場合はニューズレターを完成させることができないという問題もある。この点で参加校同士は寛容で、ひと月遅れのニューズレターもしばしば届いた。

3. 広報、参加校募集

まず、企画を始める3カ月前に共同研究のプランを立て広報した。9月に新学期を迎える学校を対象に6月に登録した企画書は以下の通りである。

PROJECT : Newsletter Exchange for ESL Classes Starting in September 1997

TIMELINE: September 1997 - May 1998

PURPOSE:

ESL Class Monthly Newsletter Project is intended for leaning English and cultures. Our students will develop a knowledge of the world and its people through reading, writing, social studies, and technology.

The students will learn about teenagers their own age and discover the similarities and differences between themselves and their new friends. We teachers can also learn from each other.

SUBJECTS: ESL/EFL

GRADE LEVEL: 9-12

PROJECT OUTLINE AND PROCEDURES:

We are looking for partner classes to exchange students' writings with us. Participating teachers plan in advance to decide on the suitable topic for each month. My suggestion of topics are listed below.

Our ESL/EFL students write a short paragraph or two about the topic each month. The teacher can copy and paste their writings on their e-mail message and send it to all the participating classes. Ten to twenty classes will be taking part in this project.

We do not plan to do one-to-one e-mail exchange. We can only send messages once a month. But if you can work on more than one topic a month, you can send us your second newsletter of your own choice of topic such as poems, social problems, our favorite people, etc. If this sounds interesting to you, let's work together.

Monthly Topics:

September - Our class introduces itself, Optional topic: Our experiences during the summer

October - A typical day at our school, after school activities

November - Our holidays and celebrations

December - Games and sports we play and watch

January - Our collections, hobbies, and interests

February - Books and authors we enjoy

March - Weekend fun in our area

April - News of interest

May - Our summer plans

You would send your class's e-mail newsletter from your school to all the participating schools around the middle of the each month. I'll try to send out short reminders if you think that will be helpful.

NUMBER OF PARTICIPANTS: 10 to 20 classrooms

REGISTRATION:

If you are interested, please send email to Keiko Nakata (email: knakata@highschl.educa.nagoya-u.ac.jp) by the end of September. I will send the list of participants to you early September so we can start right away.

*Please include the following information:

Your full name:

Your email address:

Grade(s) taught:

Subject(s):

Your school:

School WWW URL:

School address:

School voice phone:

School fax:

Any other information you think would be helpful

I will put all this info into a database and send it out to participants. If your school might be tricky to find on a map, please give some location information as well.

If you sign on to the project, please remember that the commitment is for one newsletter a month written by your students and e-mailed to the other participants. I joined a group of teachers in a similar project last year and the results were terrific. This year I would like to find partner ESL classes to organize the project together.

Any questions - just send me an e-mail note. We can't wait to begin! I will come back to school on September 1st when the school starts here in Nagoya, Japan. I will contact you as soon as I can. Thank you!

PROJECT COORDINATOR:

Keiko Nakata (English and homeroom teacher of 11th grade)

Email: knakata@highschl.educa.nagoya-u.ac.jp

Grades taught: 11th and 12th grade English

School Name :

Nagoya University, School of Education, Affiliated Upper and Lower Secondary Schools

School Address:

Furo-cho, Chikusa-ku, Nagoya 464-01 Japan

School voice phone: +81-52-789-2694

Fax: +81-52-789-2696

次に教師のネットワークである、Global SchoolNet's Internet Projects Registry (<http://www.gsn.org/pr/index.cfm>) に企画書を登録した。そしてこの提案は hilites (<http://gsn.org/lists/subscribe/hilites>) のメーリングリストに登録しているすべての教師に送られた。

また、Intercultural E-Mail Classroom Connections (IECC、<http://www.stolaf.edu/network/iecc/>) のIECC-PROJECTSというメーリングリストにも企画書を登録して参加校を募集した。

その後、ESL/EFL関連のネットワークでもこの企画書が掲示された。ネットワークを管理するアメリカの教師が本研究の広報を見て、ESL/EFLのメーリングリストに掲載するとメールで連絡が来た。こうして参加校募集はスムーズに進んだ。

参加校の数は、11月の段階で、英語を母語としない生徒のための英語クラス (ESL/EFLクラス) が20校で、以下の通りであった。デンマークのLøgmønsterskolen, アルゼンチンBuenos Airesの英語学校、ロシアVladimirのSchool 23、ドイツMuelheim an der RuhrのGustav-Heinemann-Gesamtschule、ブラジルSanta BrancaのEnglish For Ever、ロシアPskovのPskov school #4、ウルグアイMontevideoのLycee Francais、スウェーデンMalmoのMalmo latinskola、ハワイOahuのIolani School、オーストラリアTasmaniaのRosetta High School、カナダMontrealのLetendre School、フランスWissembourgのLEGTP Stanislas、ネーデルランドのSchoonoord 3、スペインのCaldes de Montbui、スウェーデンのSchool 172、アメリカIllinoisのChute Middle School、アメリカIllinoisのLincoln Hall Middle School、アメリカRhode IslandのCentral Falls JR/SR High School、アメリカTexasのRoosevelt High School、そして本校の20校であった。

英語を母語とするアメリカやオーストラリアの普通学校の参加校は初め18校であったがその後増していったので、合計45校になった時にそれ以上の参加申し込みを断った。アメリカの普通高校だけでなく、ホームスクールの参加(資料3)もあり、家庭で両親が教師で子どもが生徒という環境についても知ることが出来た。

4. 経過と運営

コーディネーターとしての役目は、テーマの決定、教師のアドレスの更新、ルール作り、ニュースレターを送るように毎月初めに呼びかけることであった。月初めにテーマの指示を出し、指定されたテーマと自由テーマについて各授業担当者に念を押した。例えば、年末年始の休暇明けには以下のようなメールを送って今後の予定を説明し協力を呼びかけた。

Dear teachers,

** From the Project Coordinator **

Thank you for your active participation in this project. We

enjoy reading your newsletter very much.

I am sending the 9th list of classes out to you today. I have deleted the unvalid addresses to eliminate the problems as much as I can. Please let me know in case you have some trouble.

** How To Unsubscribe Newsletter **

In case you decide to unsubscribe ESL Newsletter, please write "unsubscribe ESL Newsletter" in the "Subject:" section and send it to me. I will change it in the next update of email list.

** Newsletter Topics **

January - Our collections, hobbies, and interests

February - Books and authors we enjoy

March - Weekend fun in our area

April - News of interest

May - Holiday plans

** Optional Topics**

If your students would like to write about something else, that's fine. Please type the title of the passage before each message. If there is something special going on at school or in town worth mentioning, it would be interesting to read about those things, too.

*** No Time to Write This Month? ***

If you do not have time to write this month, you can send one next month. I appreciate your patience and kind cooperation.

Best regards,

Keiko Nakata

また、同じEFL環境の国から参加した2校で、片方の学校の教師が、もう片方の学校のニュースレターを読んで腹を立て気を悪くした際には仲裁をした。そのニュースレターには、自分の町についての誇りが強く表現されていた。「わが国が一番豊かで美しいリゾートだ」という表現が他方の教師の感情を刺激し、「生徒に読ませたくないニュースレターである」という抗議があった。これについては仲裁のメールを送って解決した。

テーマ決定についてのディスカッションはプロジェクト開始前に終わっていたが、開始後もテーマについて度々教師間で話し合った。9月に新学期を迎える多くのESL/EFLの授業で、「自己紹介の他に夏休

みの経験について書かせたい」という提案があり採用された。また、アメリカの普通高校の教師は、「10月にはハロウィンというテーマにしよう」と提案したが、ハロウィンの習慣がない多くの国の意見で、ハロウィンは自由テーマに含めることになった。

9月、10月と参加校が増えて、英語を母語としない生徒を教える教師だけでなく、カナダやアメリカの英語を母語とする生徒を教える教師も、国際理解、異文化交流の目的で是非参加したいという希望があり、最大45校になった。英語を母語とする学校の参加はそれ以降は断ったが、ESL/EFL以外の参加校が増えただけ作業は煩雑になり、メールを送る教師にとっても負担が増えた。

ESL/EFLの授業に限って参加を許可するべきであるという意見と、普通高校も参加してもよいという意見の両方があった。アメリカの普通高校から発信された環境問題に関するニューズレターに対して、「我々のESL/EFLの生徒は、こんな難しい英文を解釈することも返事を書くことも出来ない。授業で使えないほど高度な英文で、その上長すぎる」と苦情を送る教師もいた。一方で、アメリカの祭日や社会情勢について普通高校から詳しい説明が紹介された時には、大変感謝し、本校では授業で教師が解説しながら紹介した。

初めからESL/EFLの教師が主導権を握りネットワーク上で活発な討論をしながら進めていったので、それほど問題はなく、生徒の能力をはるかに越える英文の処理については各授業担当者に任された。

年末年始には、クリスマスと新年の挨拶が交換された。1月以降、アメリカの普通高校などは次第に発信しなくなり、最後には主にESL/EFLの生徒と教師がニューズレターを交換するようになった。2月、3月頃には、ニューズレターを送ってくれた相手校にだけ自分のクラスのニューズレターを送る教師も出てきた。教師のリストには登録しているが脱退手続きをとらないまま、ニューズレターを送らず、受け取るだけの教師もあった。それぞれの事情があると考えられるが、5月は特にアメリカの学校の参加が少なかった。学年末で生徒も教師も多忙であるという理由が考えられる。

ルールとして合意した事項は以下の7項目で、これはすべての参加教師にメールで知らせ、WWWでも見ることが出来るようにした。(1) 生徒のニューズレター原稿を教師が1つのメールにまとめて、登録している50名の教師に発信する。各生徒がメールアドレスを持っている場合でも、このプロジェクトでは生徒へ直接発信はしない。(2) ニューズレターのメールはテキストファイルで送る。(3) ESL/EFL

の生徒が短時間で読むことが出来るように、ニューズレターはなるべく短く、多くても2～3ページの長さとする。(4) 毎回ニューズレターに学校名と教師の名前を入れ、分類し易くする。学校のWWWページのURLもあればつけ加える。(5) 文化が異なるため、ハロウィーンなどの行事が無い国のために、季節ごと文化的行事についての情報を含める。(6) 生徒の英語のミスは、できれば生徒間、或いは教師の指導でなるべく訂正してから発信する。時間がない場合はやむをえないので訂正しなくても良い。(7) 各教師が他のすべての教師に月1回ニューズレターを発信する。無理な場合はコーディネーター(著者)に転送を依頼する。

5. ニューズレターの活用

ニューズレター・プロジェクト開始直後から、受け取ったニューズレターの利用方法についてのディスカッションを行った。参加教師の間で案を出し、それぞれの授業でどのように活用しているかについて意見交換をした。ある学校では、教室に大きな地図を掛けて、ニューズレターが届くと地図に印をつけてパートナー校の国や都市を示したり、ニューズレターを印刷して地図にピンで止めたりして掲示していると紹介された。他の学校では、ニューズレターを印刷して大きなノートに張り付けて教室に置き生徒たちは毎日それを読んでいると報告があった。

著者の提案した利用法は、届いたニューズレターを印刷して5部～10部程度同じフォルダを作り授業で利用するというものである。生徒はフォルダを交代で管理しニューズレターを読み、興味を持ったものを授業の際に3人から4人の小グループで仲間を読んで聞かせて、どこが面白いのか、英文のどんな活用が参考になるかなど、ディスカッションをするというものである。この方法では、生徒は自分にとって難しすぎるニューズレターは選ばない。生徒が自分で、評価できる英文を見つけるという楽しみが生まれる。一方能力の高い生徒は、アメリカの普通高校から届いた高度な英文を解釈しようと努力していた。

6. WWWでの発信

ニューズレター・プロジェクトを開始して2、3か月後にも参加申し込みが続き、全体への指示を徹底するために、参加教師の同意を得てWWWでプロジェクト関連の情報を発信することにした。インターネットのブラウザで<http://www.tcp-ip.or.jp/~nakata/>を開くと、ニューズレター・プロジェクトの概要、ルールとしての合意事項、ニューズレターの活用例、

初めの頃に届いたニューズレターのデータなどを見ることが出来るようにした。

このWWWのページでは、いくつかのニューズレターを公開するため、それらを発信した教師に知らせて了解をとった。分類はESL/EFLクラスとそれ以外のクラスの2種類で、それぞれのページに活発に参加している学校のニューズレターを20校分程度掲載した。

7. 成果

当初の目的であった「英語学習」、「英文タイプの学習」、「異文化理解」、「パソコンの利用」、「ネットワークの利用」、はインターネットを活用した本研究で充分達成できたと考える。生徒も教師もネットワークを英語学習と国際理解に活用することができたという実感が持てる共同研究であった。月刊ニューズレターを発信するという交流学习は、参加校のインターネットへの接続状況は様々であったが、生徒と教師の関心と熱意によって最後まで継続された。各月の課題の自由テーマを設けて選択の幅を広げたことにより、文化的にも言語的にも一層充実した内容のニューズレターを作成することが出来た。

本校の生徒の感想としては、「海外の同世代の人たちのものの考え方や生活は、自分と似通っていることが分かった」、「英語を学ぶのに苦勞をしているのは自分たちだけではないことが分かった」、「インターネットでニューズレターを交換して、相手の国々の文化や生活習慣をリアルタイムで知ることが出来た」、「エルニーニョにより自然災害を被った人々が気の毒だった」、「自己紹介をする際に、眼の色や髪の毛の色、身長など、日本人なら普通は述べないことも書いてあり面白い」、「英語で自分の書きたいことをまとめる練習になった」、「それほど難しい英文でなくても、簡単な英文を使って意志を伝えることができた」、「自分でコンピュータで英語入力するのは楽しい」、「ある学校の生徒が書いたことに対して他の学校の生徒が質問していてそのやりとりを私たちが読むことが出来て面白い」、「週1回、パソコンで自分の原稿を入力することで英文タイプができるようになった」などの感想があった。

学校行事や休暇などで生徒の英文を発信することが無理な場合は、教師が生徒に代わって近況を伝えることもあった。教師たちはほとんどが英語を母語としない人たちで、教師にとっても英語は外国語であるが、彼らは外国の生徒に分かりやすく伝統行事や風俗習慣を伝えていた。教師の書いたニューズレターはそのまま英語教材として利用することができ、英語教育の面でも国際理解の面でも一層充実したプ

ロジェクトになり、各教師の貢献は大きかった。

様々な課題はあるが、本校では、ニューズレター・プロジェクトのような国際的共同研究を来年以降も続けていきたいと考えている。生徒も教師も共にこの共同研究から得るところは多く、英語教育と国際理解の両方の知識を深めることが出来る。

8. 課題

本校の場合は、コンピュータの機種の問題、授業時間割の調整により視聴覚室（コンピュータのある教室）を利用する時間を確保する必要性、ネットワークを利用するための教員研修、交流学习の内容の検討などの課題がある。

まず本校の課題としては、コンピュータの問題がある。ニューズレター・プロジェクトでは、生徒は自分の書いた英文を各自でコンピュータ入力するが、NECのPC9801BX2は5年を経過し、OSはウィンドウズ3.1で、数台故障しているの、使えるのは18台である。生徒は40名の授業で使うことは無理なので、選択科目の英語ライティングでニューズレター・プロジェクトを実施した。生徒数は高校3年生のライティングの場合、16名～40名と年度によって人数が違う。40人学級でコンピュータを利用できる環境整備が望まれる。

本校でインターネットにつないでいるコンピュータは生徒用に5台でMacintosh Performa 575と588である。NECのPC9801BX2は機種が古く、ウィンドウズ3.1のOSはインターネットに対応していない。生徒がPC98で入力した英文記事を教師がMacintoshでデータ変換して発信するためかなり手間がかかるという問題がある。

次に、授業時間割編成の問題がある。選択英語ライティングは2単位で、週2時間授業があるが、そのうち1時間を英文記事作成とパソコン入力に当てる予定であった。しかし時間割の関係で実現できなかった。コンピュータを利用する授業は、技術家庭科、総合人間科などがあり、中学と高校の時間割編成で調整を依頼したが、平成9年度の前期は週一回コンピュータを利用できたが、後期は技術家庭科の授業と重なって全く利用できなかった。それで、生徒各自がコンピュータ入力したのは実際には4月から9月までで、10月以降は生徒の書いた原稿を教師が入力せざるを得なかった。この点で、平成10年度は前期も後期も週一回利用できるように時間割編成において改善されている。

次に、ネットワーク利用に関する教員研修の問題がある。このプロジェクトのような交流学习では、もし設備環境が整えば、インターネットでテレビ会

議をすることが望ましい。Eメールで情報交換をしたり、ホームページでアンケートを実施したり研究成果を発表したりするのに加えて、交流している相手校の生徒とインターネットを介して直接出会い、共同研究をしている友達顔を見ながら情報交換することが重要である。特に語学学習においては、テレビ会議で英語で情報交換することにより、相手の英語を聞き取り、自分の意志を英語で伝える貴重な機会を得ることが出来る。今後はどの教科の教師もインターネットをフルに活用できるように環境を整備し、教員の講習会などを開いてネットワーク活用方法を学び合う必要がある。

最後に、ネットワークを活用した交流学習の学習内容を検討する必要性があげられる。インターネットを活用した共同研究が長続きするためには、単なるメール交換ではなく、共通したテーマで調査研究をする形式の交流学習が望ましいと考えられる。その際に、研究テーマについて参加教師と生徒が常に意見を出し合いながら、それぞれの教育環境及び社会環境に適應する形に変えて調査研究を進めていかなければならない。本研究は、この点では成功したと考えられる。

9. まとめ

本研究が終わりに近づいた頃、ある教師から「このニューズレター・プロジェクトが一番長続きした企画であった。我々の学校はアメリカや他の国から発案された交流学習の企画に多く参加したが、それらはみな途中で途切れてしまった。このニューズレター・プロジェクトの企画は最後まで皆が参加して継続することができ、大変有意義な交流学習であった。」というメッセージが寄せられた。これはコーディネータとして企画運営してきた著者にとって励みになる言葉であった。ニューズレター・プロジェクトに参加し、この交流学習の企画を成功させてくださった先生方と生徒たちに感謝している。

英語の授業だけでなく、他教科、総合人間科においても今後ますますインターネットが学習に活用されるであろう。インターネットを利用した交流学習に関連して様々な参考資料が出版され、またWWW上でも発信されている。それらを参考にしながら一層充実した交流学習の企画運営を目指したい。

資料 1

12月のテーマ「スポーツ」でウルグアイの学校より寄せられたサッカーについての記事
We are late because November and December are very

hectic months here in Uruguay: classes ended on December 10 and that meant meetings of all kinds, end of the year activities, final tests, final exams, including the "Brevet de Colleges" and Preliminary English Test (Cambridge) our students take in November and December. They actually didn't have time to type their letters

so I offered to do that job for them, that's why we are late!

The most popular sport in Uruguay is "futbol" (football, soccer for the American). We have a glorious tradition: in 1930 we had an excellent team and won the gold medal in the "Estadio Centenario" declared Wold Monument (Centennial Stadium since in 1830 was our Independence) on the occasion of the First World Cup, Uruguay also won the gold medal in 1950 against Brazil in Brazil.

This sport was brought by the British immigrants and soon became popular in Uruguay, Brazil, Argentina and Chile. In our country, everybody plays it poor, rich people, at the stadiums, schools, yards and even the streets.

It's one of the best known ways of socializing children and youth and today a way of making a living for many - specially from low classes. Unfortunately for us, those glorious days are over, economical problems hit our football teams and when there's a good player, he is immediately

"sold" to a European team (in general), so, when there's a world champion-ship the team cannot practice together for a certain period since footballers who are scattered all around arrive some days before or even a day before the match. The sad result was that for the first time Uruguay will not be in the world cup, in spite of having excellent players.

Best wishes from all your friends in Montevideo, Uruguay
Lycee Francais de Montevideo
Uruguay

資料 2

フランスの学校より1月に寄せられた国紹介の記事
We resumed school today and somehow none of us was really in the mood for writing about the topic of the month. So, we thought we'd do something else...
To start the New Year, we would like to propose a kind of quiz about our country. Some questions will probably look

simple for those who live in Europe but can all of you get the right answers?

- 1) Who is the wife of the President of the French Republic?
 - a- Catherine Deneuve
 - b- Bernadette Chirac
 - c- He's a bachelor
- 2) July, 14th, 1789 is the National Day on which we celebrate:
 - a- the inauguration of the Eiffel Tower
 - b- the beginning of the French revolution
 - c- the landing of the French astronauts on Mars
- 3) What is Roquefort?
 - a- a lake at the French-Swiss border
 - b- a French blue-veined cheese
 - c- the name of the town where Elvis Presley did his military service
- 4) Who is Napoleon?
 - a- the man who painted Mona Lisa
 - b- The name of the Football World Cup mascot
 - c- a French emperor
- 5) Who is Mitterrand?
 - a- a French bishop of the 17th century
 - b- a French cartoon character whose best friend is Obelix
 - c- a former president of the French republic
- 6) Chanel nr. 5 is:
 - a- a perfume
 - b- the name of a prototype aircraft
 - c- the name of a French TV channel
- 7) The Marseillaise is
 - a- the French national anthem
 - b- a famous restaurant in Paris
 - c- the name of the river which goes through Marseille
- 8) What is the motto of France?
 - a- freedom, equality, brotherhood
 - b- food, wine, cinema
 - c- victory, fortune, games
- 9) What is Seine?

- a- the S.E.I.N.E. is the name of the French secret services
- b- Robert Seine was the man who invented the steam-powered processing machine which makes baguettes
- c- the name of the river which divides Paris into two parts

- 10) Gerard Depardieu is:
- a- secretary of the Board of Education
 - b- a football player
 - c- a French film actor

Well, that's it for today! Hope you enjoyed yourselves,
LEGTP Stanislas, Wissembourg, France

資料 3

アメリカのNew Mexico州のホームスクールより寄せられた学校紹介の記事

Date: Wed, 8 Oct 1997 17:49:36 -0600 (MDT)

Subject: September Newsletter--Class Introduction
Greetings From Our Home Schooling Class!

We are schooled in our home, but we are just as busy as any public or private school! Have any of you been involved in the Postcard Exchanges? OR the Quilt Squares projects? We are just about finished with both.

There are 3 students in our class. Grades ranging from 5-12. Yes we do our schooling in our home. We still have the bookwork and plenty of the same work that you have to do. Sometimes we think the teacher we have now (our Mom) is harder on us and gives us more work than we had in the public schools. The weather is usually hot and dry here or warm and dry. Today we are having one of our 'Monsoons'. They usually last only in the afternoon or late evening and then are gone. We usually have 360 days of sunshine and some people will wear shorts all year long. We are also doing an aeronautics class.

We won't do too much for student profiles for security reasons. But we will let you know about what we are doing and maybe compare the differences and likenesses of our schools.

Linda K., teacher
Culebrear Home Schools